

大阪市におけるホームレス者の死亡調査

| | | | |
|------------|-------------------------|-----------|----------------------------|
| オウサカ 逢坂 | タカコ 隆子* | サカイ 坂井 | ヨシオ 芳夫 ^{2*} |
| クロダ 黒田 | ケンジ 研二 ^{3*} | マトバ 的場 | リョウジ 梁次 ^{2,4*} |

目的 近年都市部で急増しているホームレス者の、死亡前後の生活・社会経済的状况ならびに死因・解剖結果を明らかにする。

方法 2000年に大阪市内で発生したホームレス者の死亡について、大阪府監察医事務所・大阪大学法医学講座の資料をもとに分析した。野宿現場を確認できているか、発見時の状況から野宿生活者と推測される者および野宿予備集団として簡易宿泊所投宿中の者の死亡をホームレス者の死亡として分析対象にすると共に、併せて野宿生活者と簡易宿泊所投宿者の死亡間の比較を行った。

成績 大阪市において、2000年の1年間に294例（うち女5例）のホームレス者（簡易宿泊所投宿中の者81例を含む）の死亡があったことが確認された。死亡時の平均年齢は56.2歳と若かった。死亡時所持金が確認された人のうちでは、所持金1,000円未満が約半数を占めていた。死亡の種類は、病死172例（59%）、自殺47例（16%）、餓死・凍死を含む不慮の外因死43例（15%）、他殺6例（2%）であった。病死の死因は心疾患、肝炎・肝硬変、肺炎、肺結核、脳血管疾患、栄養失調症、悪性新生物、胃・十二指腸潰瘍の順であった。栄養失調症9例・餓死8例・凍死19例は全て40歳代以上で、60歳代が最多であった。これらの死亡者についての死亡時所持金は、他死因による死亡時の所持金より有意に少なかった。栄養失調症・餓死は各月に散らばるが、凍死は2月を中心に寒冷期に集中していた。全国男を基準とした野宿生活者男の標準化死亡比（全国男=1）は、総死因3.6、心疾患3.3、肺炎4.5、結核44.8、肝炎・肝硬変4.1、胃・十二指腸潰瘍8.6、自殺6.0、他殺78.9などいずれも全国男よりも有意に高かった。

結論 ホームレス者の死亡平均年齢は56.2歳という若さである。肺炎、餓死、凍死をはじめ、総じて予防可能な死因による死亡が極めて多く、必要な医療および生命を維持するための最低限の食や住が保障されていない中での死亡であることを示唆している。

Key words : ホームレス者, 野宿生活者, 簡易宿泊所投宿者, 健康問題, 死亡調査, 標準化死亡比

* 四天王寺国際仏教大学大学院人文社会学研究科人間福祉学専攻

^{2*} 大阪府監察医事務所

^{3*} 大阪府立大学社会福祉学部

^{4*} 大阪大学大学院社会医学専攻法医学講座

連絡先：〒562-0003 大阪府箕面市西小路 3-17-24

逢坂隆子